

1 教科の到達目標(学習のねらい、身に付けたい力)

- 楽しく美術の活動に取り組み美術の愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、良さや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2 年間学習計画と単元(題材)

学期	月	単元・題材名	内容	達成目標(ねらい)
1 学期	4 5	色彩理論基礎 (デザイン/絵画)	○制限された色で描くことで色彩の使い方を知る	○三原色から色彩の基礎を知る。 ○使用できる色を制限することで混色の使い方を学ぶ。
	5	西洋絵画 (鑑賞)	○名画を元に西洋絵画の基礎を知る	○西洋絵画の基礎的な知識を知る。 ○美術家の色使いを学ぶ。
	6 7	レタリング・絵文字 (デザイン)	○自分の名前のレタリングと絵文字の制作	○レタリングの事を知り学ぶ。 ○文字の一部に絵を使いデザインの基礎を学ぶ。
	8	ポスター 夏休みの課題(デザイン)	○ポスターを制作する	○今まで学んだことを活かすことができる。 ○テーマに沿って創意ある作品に仕上げる。
2 学期	9 10 11	立体表現 (工芸)	○有名な立体作品を学ぶ ○複数の素材を組み合わせて自分の選んだモチーフを模倣する	○立体作品の表現方法を知る。 ○自分で素材の選択をする。 ○観察眼を養う。
	12	モダンテクニック (絵画)	○モダンテクニックを実際に体験する	○筆で塗る以外の方法があることを知る。
3 学期	12 1	コラージュ (デザイン/絵画)	○条件を取り入れつつコラージュする	○今まで学んだことを活かし新しい表現を学ぶ。 ○作品構成を学ぶ。
	2	デッサン基礎 (絵画)	○自分の手を描く	○デッサンに必要な基礎を学ぶ。 ○明暗を意識して描く。
	2 3	消しゴムハンコ (工芸)	○削る道具を使ってハンコを制作する	○削る道具の基礎を学ぶ。 ○簡易的にだが版画の知識を知る。

3 評価方法

観点	評価規準	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○制作用具の基本的な扱い方を理解し、正しく使って自分の思い通りの作品に仕上げる力 ○テーマの意味や素材の特徴を理解し、自分の作品に生かし仕上げる力 ○想像力を働かせ、作品に表された作品の心情や意図、そして表現の工夫を感じ取り、多様な表現の良さや美しさなどを味わい、理解し、鑑賞に親しむ力 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイディアスケッチ ・完成作品 ・ワークシート ・定期テスト

思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ものをよく見る力、気づき発見する力 ○豊かな感情や考え、空想力や想像力を広げイメージする力 ○新しいもの、斬新なもの、ユニークなものを考え出す力 ○作品を通してコミュニケーションや意見の交換をし、お互いの良さや個性などを理解し合う力 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイディアスケッチ ・完成作品 ・ワークシート ・定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○より良いものを作り出そうとする態度 ○課題の理解から完成した作品まで、良い表現のため工夫や方法を導き出そうとする姿勢 ○自他の作品に愛着をもち大切にしようとする気持ち ○授業中に行うことに対しての知識と理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度(授業への取り組み方、姿勢や様子) ・アイディアスケッチ ・作品完成(制作状況を含む) ・ワークシート、鑑賞プリント ・提出物、忘れ物、後片付け ・定期テスト

4 授業の取り組みについてのアドバイス

○授業の受け方と心構え

- ・「授業は学び場」であることを忘れずに、集中して自分の課題、作業に取り組みましょう。また、他の人の集中の妨げにならないように注意しましょう。

○授業に準備するもの

- ・教科書、資料集、筆記用具（美術では鉛筆、消しゴムを必ず用意してください。）以上 3 点が基本的な持ち物です。その他、課題によって用意するものがありますが、事前に授業で連絡します。
- ・限られた時間を大切に使うために、忘れ物のないようにしてください。

5 家庭学習の進め方についてのアドバイス

- ・美術の時間は週に 1～2 時間しかありません。課題に対してのアイデアや構想は美術の時間だけでは不足がちです。授業中で考えたことは家庭学習でまとめておき、次の時間にスムーズに入れるようにしておきましょう。
- ・普段の生活の中から、課題を常に意識をして「おもしろいもの、たのしいもの、きれいなもの」など参考になりそうなものを記憶に留めておきましょう。できれば写真を撮っておいたり、スケッチしたりして、自分なりの参考資料を増やしておきましょう。

6 定期テスト前の取り組みについてのアドバイス

- ・美術のテストは課題、目的、内容、実践方法などの授業中の確認事項が主になります。教科書、資料集、プリント、ワークシート、板書などを復習しておきましょう。

7 苦手な人の取り組みについてのアドバイス

- ・「絵には自信がなくて、美術は苦手」と思う人がいるかと思いますが、大切なのは「絵がうまい」ことではなく「自分の表現したいことを表現できるように考え実践する」ことです。どうしても表面上の良し悪しに目が行きがちですが、そのことに一喜一憂するのではなく、自分ができる表現を模索していきましょう。その模索が技術面では得られないスキルを得るきっかけになります。そしてそれが美術の本当の意味です。